

平成21年度 農林水産情報交流ネットワーク事業地方アンケート  
食育等に関するアンケート

本アンケートは、農業者、消費者の食育等に関する意識・意向を把握し、今後の食育等の施策を推進するための資料として活用するため、東北管内の農林水産情報交流モニター（農業者、消費者）555人を対象にアンケートを実施し、464人から回答を得たものです。

## I 結果の概要

### 1 食育について

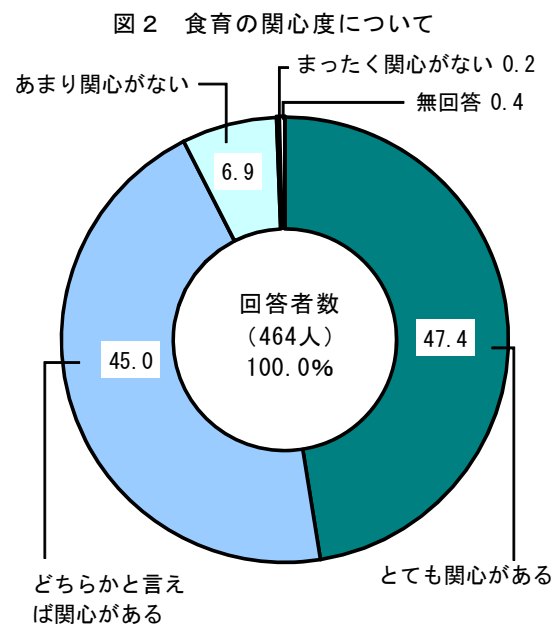
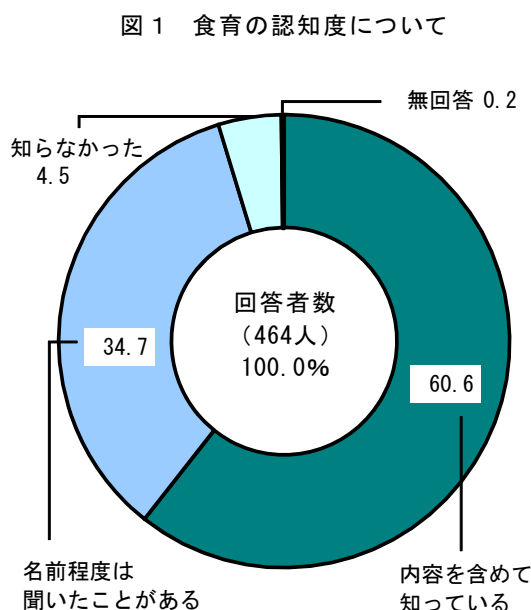
－「とても関心がある」、「どちらかと言えば関心がある」が9割以上－

「食育」を知っているか聞いたところ、「内容を含めて知っている」が60.6%、「名前程度は聞いたことがある」が34.7%、「知らなかった」が4.5%となっている。

（図1参照）

また、「食育」に関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」が47.4%で、「どちらかと言えば関心がある」が45.0%となっており、合わせて9割以上が関心があると回答した。

一方、「あまり関心がない」、「まったく関心がない」は、合わせて7.1%となっている。（図2参照）



※食育については、P13の用語説明を参照して下さい。

## 2 食事バランスガイドについて

－「内容を含めて知っている」及び「名前程度は聞いたことがある」が8割－

「食事バランスガイド」を知っているか聞いたところ、「内容を含めて知っている」が40.7%、「名前程度は聞いたことがある」が39.7%、「知らなかった」が19.4%となっている。(図3参照)

また、「内容を含めて知っている」と回答した人に食生活でどの程度「食事バランスガイド」を参考にしてしているか聞いたところ、「時々参考にしてしている」が62.4%で、「いつも参考にしてしている」が10.6%となっており、合わせて7割以上が参考にしてしていると回答した。(図4参照)

図3 食事バランスガイドの認知度について

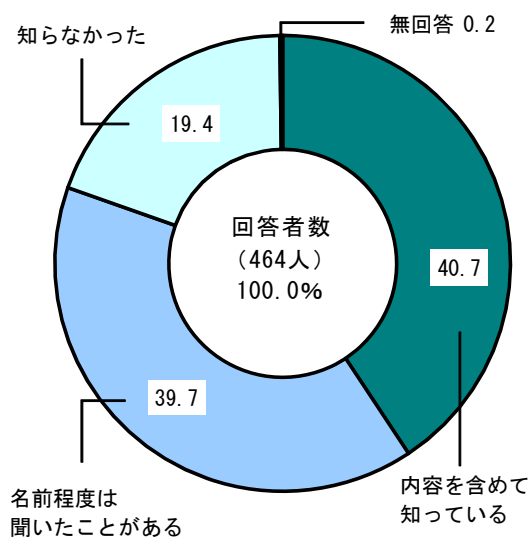
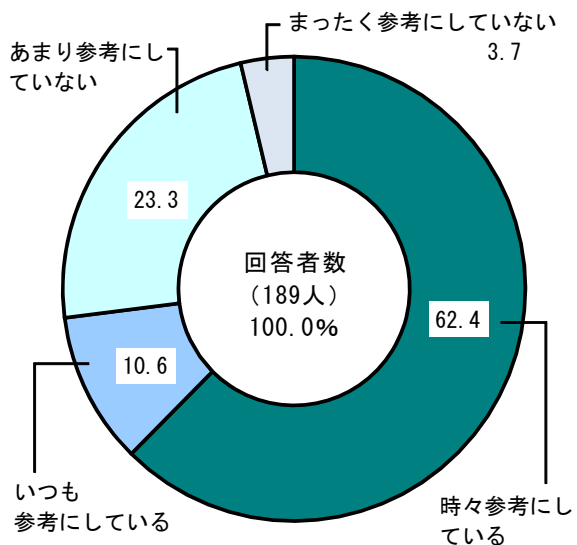
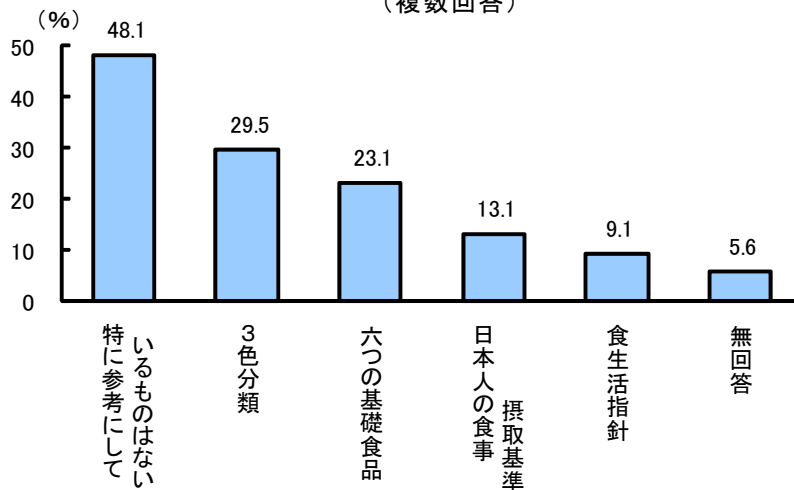


図4 食事バランスガイドの活用について



さらに、「食事バランスガイド」のほか、参考にしてしているものがあるか聞いたところ、「特に参考にしていないものはない」が48.1%で最も多く、次いで「3色分類」が29.5%、「六つの基礎食品」が23.1%などの順となっている。(図5参照)

図5 食事バランスガイドの他に参考にしてしているものについて (複数回答)



※食事バランスガイド、食生活指針、3色分類、六つの基礎食品、日本人の食事摂取基準については、P13の用語説明を参照して下さい。

### 3 学校給食への「地場産物」の活用について

#### －「必要だと思う」が9割－

学校給食に「地場産物」を使用する取組について聞いたところ、「必要だと思う」が89.9%、「どちらかというとな必要だと思う」が8.4%となっており、ほとんどが必要と回答した。(図6参照)

また、学校給食に「地場産物」を使用する取組について、「必要だと思う」又は「どちらかというとな必要だと思う」と回答した人に、学校給食に「地場産物」を使用することでどのような効果が期待されるか聞いたところ、「地域の農業に関心を持つ」が84.4%で最も多く、次いで「より新鮮な食材の提供」が83.1%、「地域の農業振興」が71.5%などの順となっている。(図7参照)

図6 学校給食に「地場産物」を使用する取組について

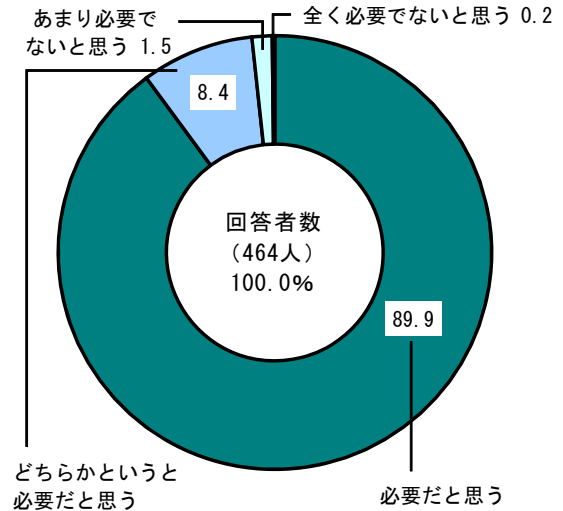
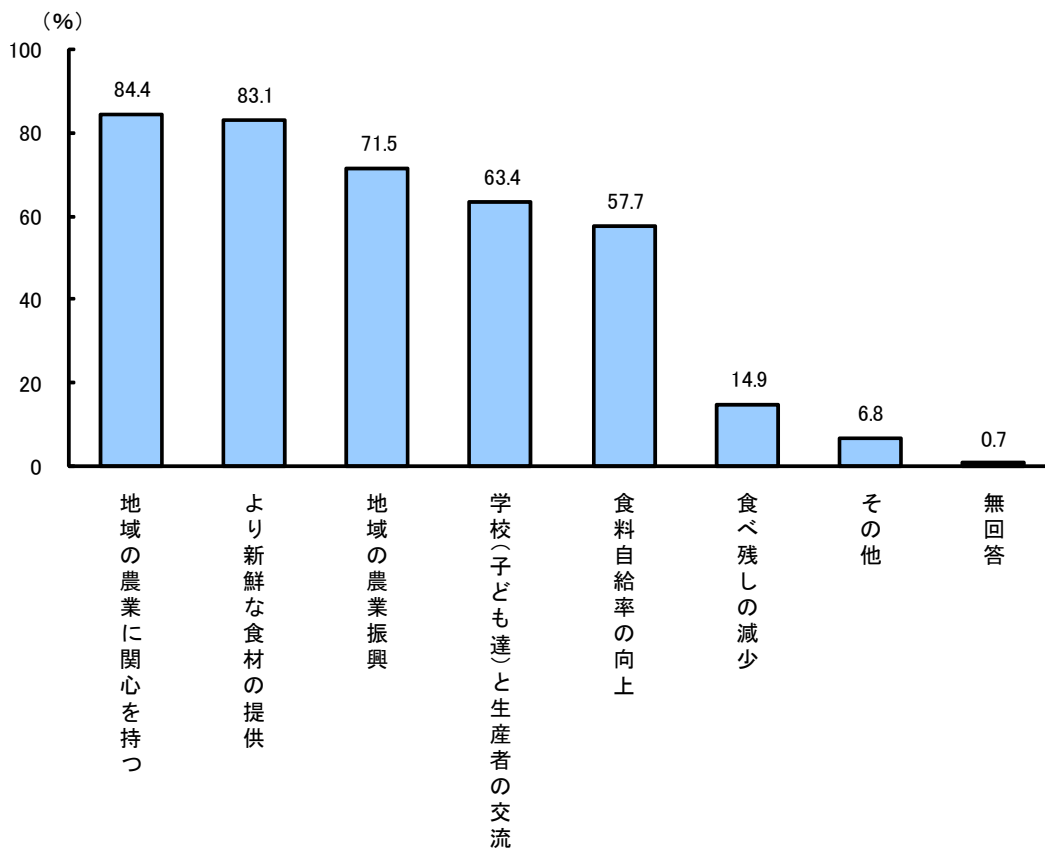


図7 学校給食に「地場産物」を使用することで期待される効果について (複数回答)



※本調査で「地場産物」とは、消費地と同一の県内において生産された農畜水産物及びその加工品としています。

#### 4-1 教育ファームについて【農業者モニター】

##### ー「提供したい」及び「すでに提供している」が約8割ー

「教育ファーム」を知っているか聞いたところ、「名前程度は知っている」が37.9%、「内容を含めて知っている」が25.1%となっており、「知らなかった」が34.9%となっている。(図8参照)

「教育ファーム」で、農作業等体験の機会を提供してみたいか聞いたところ、「無償でも提供したい」が40.1%、「有償なら提供してみたい」が19.6%となっており、「すでに提供している」と合わせると約8割になっている。

一方、「提供したいとは思わない」は18.7%となっている。(図9参照)

図8 教育ファームの認知度について  
(農業者モニター)

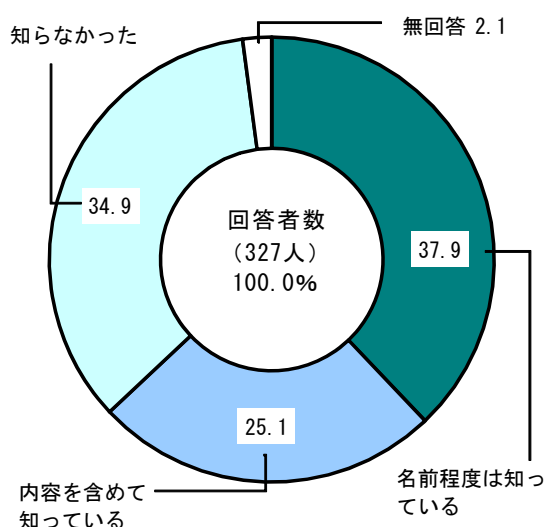
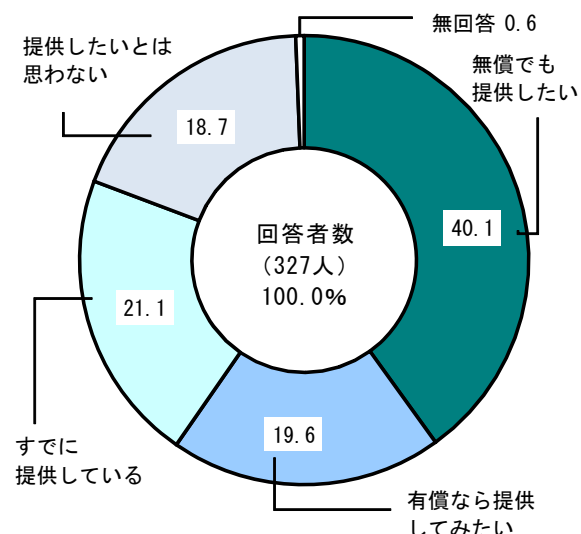
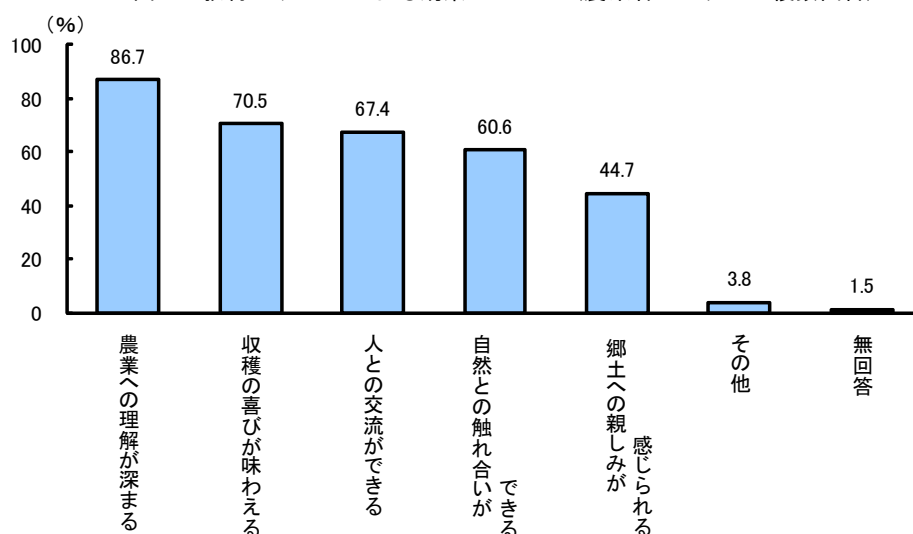


図9 教育ファームの機会を提供してみたいかについて  
(農業者モニター)



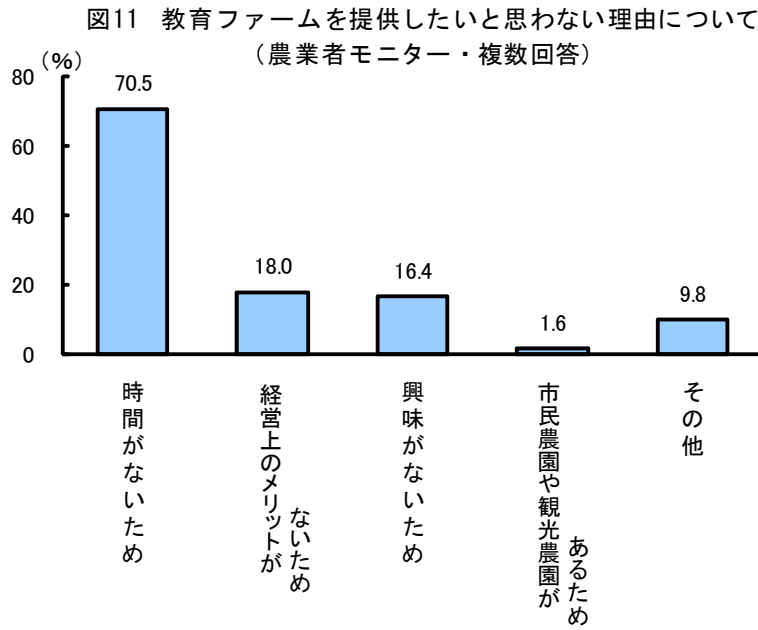
また、「無償でも提供したい」、「有償なら提供してみたい」又は「すでに提供している」と回答した人に、提供による利用者への効果について聞いたところ、「農業への理解が深まる」が86.7%で最も高く、次いで「収穫の喜びが味わえる」が70.5%、「人との交流ができる」が67.4%などの順となっている。(図10参照)

図10 教育ファームによる効果について (農業者モニター・複数回答)

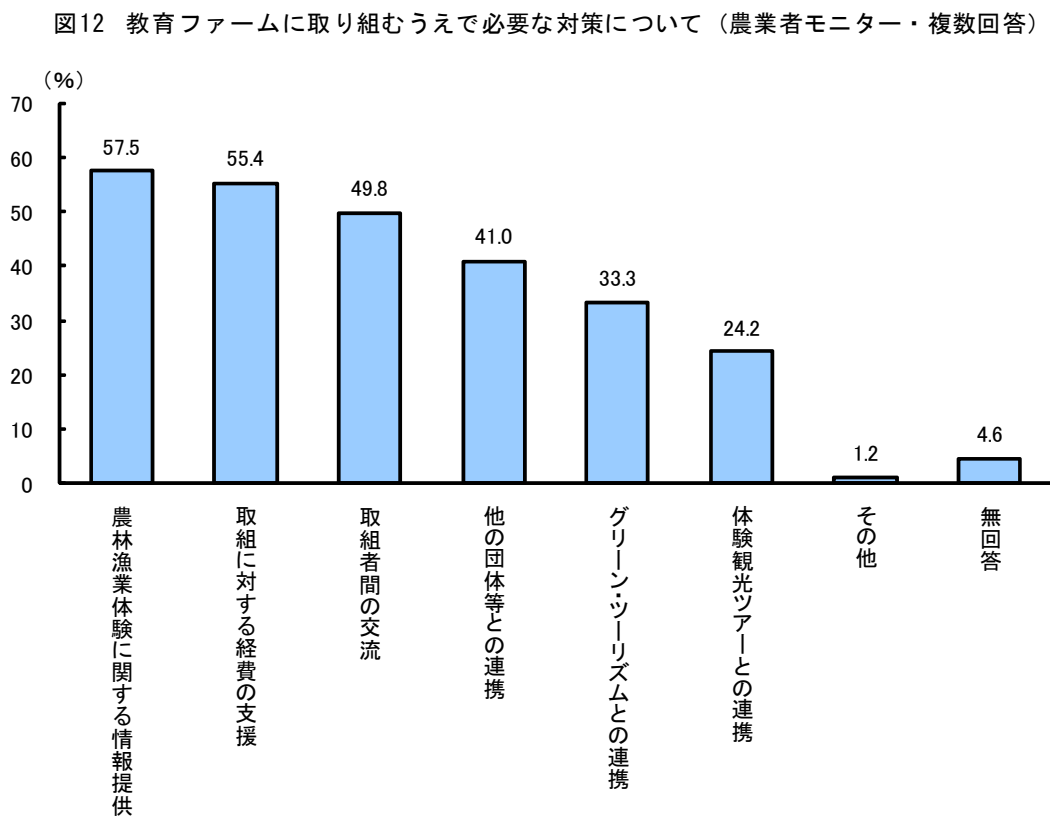


※教育ファームについては、P13の用語説明を参照して下さい。

一方、「提供したいとは思わない」と回答した人に理由を聞いたところ、「時間がな  
いため」が70.5%で最も高く、次いで「経営上のメリットがないため」が18.0%、「興  
味がないため」が16.4%などの順となっている。(図11参照)



「教育ファーム」に取り組むうえでどのような対策が必要と考えるか聞いたところ、  
「農林漁業体験に関する情報提供」が57.5%で最も高く、次いで「取組に対する経費  
の支援」が55.4%、「取組者間の交流」が49.8%などの順となっている。(図12参照)



## 4-2 教育ファームについて【消費者モニター】

### ー「やってみたい」及び「現在取り組んでいる」が約7割ー

「教育ファーム」を知っているか聞いたところ、「知らなかった」が41.6%となっており、「名前程度は知っている」が40.9%、「内容を含めて知っている」が14.6%となっている。(図13参照)

「教育ファーム」で、農作業に取り組んでみたいか聞いたところ、「無料ならやってみたい」が46.7%、「有料でもやってみたい」が13.1%となっており、「現在取り組んでいる」と合わせると約7割になっている。

一方、「やってみたいとは思わない」は30.7%となっている。(図14参照)

図13 教育ファームの認知度について  
(消費者モニター)

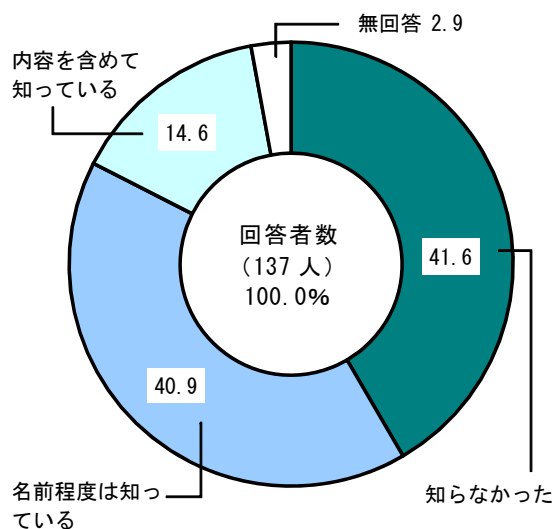
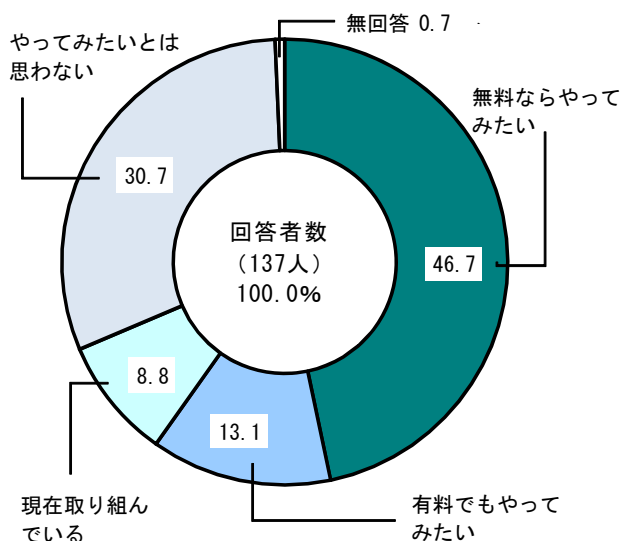
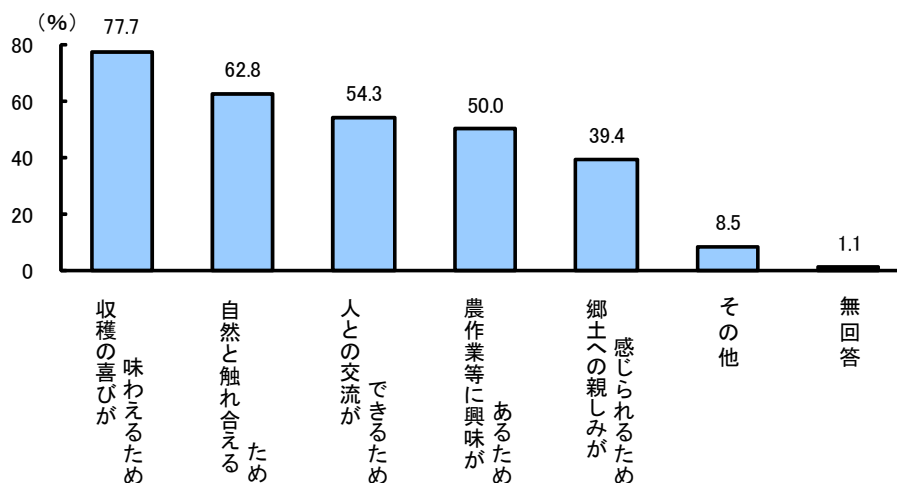


図14 教育ファームに取り組みたいかについて  
(消費者モニター)



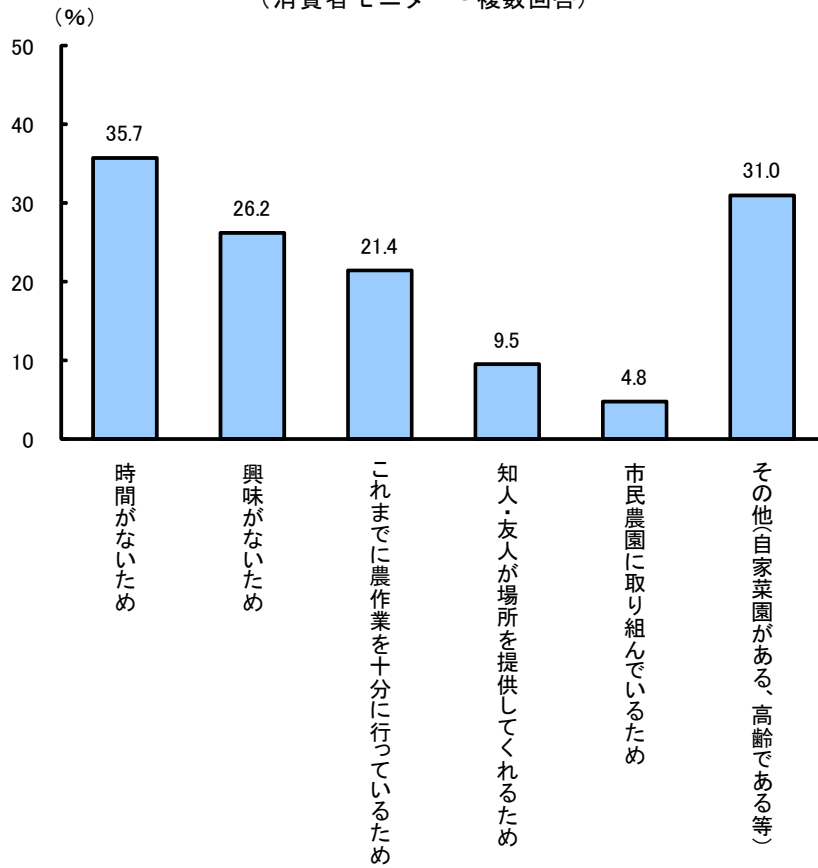
また、「無料ならやってみたい」、「有料でもやってみたい」又は「現在取り組んでいる」と回答した人に、取り組んでみたい理由を聞いたところ、「収穫の喜びが味わえるため」が77.7%で最も高く、次いで「自然と触れ合えるため」が62.8%、「人との交流ができるため」が54.3%、「農作業等に興味があるため」が50.0%などの順となっている。(図15参照)

図15 教育ファームをやってみたい理由について (消費者モニター・複数回答)



一方、「やってみたいとは思わない」と回答した人に理由を聞いたところ、「時間が  
ないため」が35.7%で最も高く、次いで「興味がないため」が26.2%、「これまでに  
農作業を十分に行っているため」が21.4%などの順となっている。(図16参照)

図16 教育ファームをやってみたいと思わない理由について  
(消費者モニター・複数回答)



## II 結果表

### 食育について

※食育については、P13の用語説明を参照して下さい。

1 あなたは、「食育」を知っていますか。

単位：％

区 分		回答者数 (人)	計	内容を含 めて知っ ている	名前程度 は聞いた ことがある	知らな かった	無回答
計		464	100.0	60.6	34.7	4.5	0.2
対象者別	農 業 者	327	100.0	55.0	39.1	5.5	0.3
	消 費 者	137	100.0	73.7	24.1	2.2	-
性別	男 性	360	100.0	55.3	38.6	5.8	0.3
	女 性	104	100.0	78.8	21.2	-	-
年齢階層別	39 歳 以 下	36	100.0	61.1	38.9	-	-
	40 ～ 49 歳	51	100.0	62.7	33.3	3.9	-
	50 ～ 64 歳	282	100.0	59.9	35.1	4.6	0.4
	65 歳 以 上	95	100.0	61.1	32.6	6.3	-

2 あなたは、「食育」に関心がありますか。

単位：％

区 分		回答者数 (人)	計	とても関 心がある	どちらか と言えば 関心があ る	あまり関 心がない	まったく 関心がない	無回答
計		464	100.0	47.4	45.0	6.9	0.2	0.4
対象者別	農 業 者	327	100.0	41.6	49.2	8.6	0.3	0.3
	消 費 者	137	100.0	61.3	35.0	2.9	-	0.7
性別	男 性	360	100.0	43.1	47.8	8.3	0.3	0.6
	女 性	104	100.0	62.5	35.6	1.9	-	-
年齢階層別	39 歳 以 下	36	100.0	41.7	55.6	2.8	-	-
	40 ～ 49 歳	51	100.0	39.2	51.0	9.8	-	-
	50 ～ 64 歳	282	100.0	46.5	45.7	7.4	-	0.4
	65 歳 以 上	95	100.0	56.8	35.8	5.3	1.1	1.1

### 食事バランスガイドについて

※食事バランスガイド、食生活指針、3色分類、六つの基礎食品、日本人の食事摂取基準については、P13の用語説明を参照して下さい。

3 あなたは、「食事バランスガイド」を知っていますか。

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	内容を含めて 知っている	名前程度は 聞いたこと がある	知らなかつ た	無回答
計	464	100.0	40.7	39.7	19.4	0.2
対象者別						
農業者	327	100.0	30.6	44.6	24.5	0.3
消費者	137	100.0	65.0	27.7	7.3	-
性別						
男性	360	100.0	31.1	44.7	23.9	0.3
女性	104	100.0	74.0	22.1	3.8	-
年齢階層別						
39歳以下	36	100.0	58.3	22.2	19.4	-
40～49歳	51	100.0	41.2	37.3	21.6	-
50～64歳	282	100.0	37.2	40.8	22.0	-
65歳以上	95	100.0	44.2	44.2	10.5	1.1

4 3で、「内容を含めて知っている」と回答した方に伺います。あなたは、食生活でどの程度「食事バランスガイド」を参考にしていますか。

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	いつも参考に している	時々参考に している	あまり参考に していない	まったく参 考にしてい ない	無回答
計	189	100.0	10.6	62.4	23.3	3.7	-
対象者別							
農業者	100	100.0	6.0	68.0	22.0	4.0	-
消費者	89	100.0	15.7	56.2	24.7	3.4	-
性別							
男性	112	100.0	7.1	66.1	22.3	4.5	-
女性	77	100.0	15.6	57.1	24.7	2.6	-
年齢階層別							
39歳以下	21	100.0	4.8	52.4	38.1	4.8	-
40～49歳	21	100.0	4.8	52.4	28.6	14.3	-
50～64歳	105	100.0	7.6	66.7	22.9	2.9	-
65歳以上	42	100.0	23.8	61.9	14.3	-	-

5 あなたは、食生活で「食事バランスガイド」のほか、参考にしているものがありますか。  
(複数回答)

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	食生活指針	3色分類	六つの基礎 食品	日本人の食 事摂取基準	特に参考に しているも のではない	無回答
計	464	100.0	9.1	29.5	23.1	13.1	48.1	5.6
対象者別								
農業者	327	100.0	7.6	24.5	15.6	11.0	55.7	6.4
消費者	137	100.0	12.4	41.6	40.9	18.2	29.9	3.6
性別								
男性	360	100.0	8.9	24.2	17.2	12.8	53.3	6.4
女性	104	100.0	9.6	48.1	43.3	14.4	29.8	2.9
年齢階層別								
39歳以下	36	100.0	5.6	25.0	22.2	11.1	58.3	2.8
40～49歳	51	100.0	3.9	21.6	19.6	2.0	60.8	2.0
50～64歳	282	100.0	7.8	29.1	18.8	12.8	49.6	6.7
65歳以上	95	100.0	16.8	36.8	37.9	21.1	32.6	5.3

## 学校給食への「地場産物」の活用について

※本調査で「地場産物」とは、消費地と同一の県内において生産された農畜水産物及びその加工品としています。

6 あなたは、学校給食に「地場産物」を使用する取組についてどう思いますか。

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	必要だと思 う	どちらか と 必要だと思 う	あまり必 要でない と思う	全く必要 でないと思 う	無回答
計	464	100.0	89.9	8.4	1.5	0.2	-
対象者別							
農業者	327	100.0	90.5	8.3	1.2	-	-
消費者	137	100.0	88.3	8.8	2.2	0.7	-
性別							
男性	360	100.0	89.2	8.6	1.9	0.3	-
女性	104	100.0	92.3	7.7	-	-	-
年齢階層別							
39歳以下	36	100.0	83.3	13.9	-	2.8	-
40～49歳	51	100.0	84.3	13.7	2.0	-	-
50～64歳	282	100.0	90.8	7.4	1.8	-	-
65歳以上	95	100.0	92.6	6.3	1.1	-	-

7 6で、「必要だと思う」又は「どちらかという必要だと思う」と回答した方に伺います。あなたは、学校給食に「地場産物」を使用することでどのような効果が期待されると思いますか。（複数回答）

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	食べ残し の減少	より新鮮 な食材の 提供	地域の農 業に関心 を持つ	地域の農 業振興	食料自給 率の向上	学校（子 ども達） と生産者 の交流	その他	無回答
計	456	100.0	14.9	83.1	84.4	71.5	57.7	63.4	6.8	0.7
対象者別										
農業者	323	100.0	12.7	81.1	85.8	68.7	51.4	63.8	4.0	0.9
消費者	133	100.0	20.3	88.0	81.2	78.2	72.9	62.4	13.5	-
性別										
男性	352	100.0	13.9	81.3	85.2	70.7	51.4	63.4	5.1	0.9
女性	104	100.0	18.3	89.4	81.7	74.0	78.8	63.5	12.5	-
年齢階層別										
39歳以下	35	100.0	17.1	80.0	68.6	74.3	71.4	45.7	-	-
40～49歳	50	100.0	12.0	76.0	86.0	62.0	40.0	48.0	10.0	-
50～64歳	277	100.0	14.4	85.2	84.5	73.6	56.3	70.4	7.6	0.7
65歳以上	94	100.0	17.0	81.9	89.4	69.1	66.0	57.4	5.3	1.1

## 教育ファームについて 【農業者モニター】

※教育ファームについては、P13の用語説明を参照して下さい。

8 あなたは、「教育ファーム」を知っていますか。

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	内容を含めて 知っている	名前程度は 知っている	知らなかつ た	無回答
農業者	327	100.0	25.1	37.9	34.9	2.1

9 あなたは、「教育ファーム」で、農作業等体験の機会を提供してみたいですか。

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	無償でも提 供したい	有償なら提 供してみたい	すでに提供 している	提供したい とは思わな い	無回答
農業者	327	100.0	40.1	19.6	21.1	18.7	0.6

10 9で、「無償でも提供したい」、「有償なら提供してみたい」又は「すでに提供している」と回答した方に伺います。農作業等体験の提供によって、利用者にとどのような効果があると思いますか。（複数回答）

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	自然との触 れ合いがで きる	農業への理 解が深まる	収穫の喜び が味わえる	人との交流 ができる	郷土への親 しみが感じ られる	その他	無回答
農業者	264	100.0	60.6	86.7	70.5	67.4	44.7	3.8	1.5

11 9で、「提供したいとは思わない」と回答した方に伺います。教育ファームを「提供したいとは思わない」理由はどれですか。（複数回答）

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	興味がな いため	時間がな いため	経営上のメ リットがな いため	市民農園や 観光農園が あるため	その他	無回答
農業者	61	100.0	16.4	70.5	18.0	1.6	9.8	-

12 「教育ファーム」に取り組むうえで、どのような対策が必要と考えますか。（複数回答）

単位：％

区分	回答者数 (人)	計	農林漁業体 験に関する 情報提供	他の団体等 との連携	取組者間の 交流	取組に対す る経費の支 援	グリーン・ ツーリズム との連携	体験観光ツ アーとの連 携	その他	無回答
農業者	327	100.0	57.5	41.0	49.8	55.4	33.3	24.2	1.2	4.6

## 教育ファームについて 【消費者モニター】

※教育ファームについては、P13の用語説明を参照して下さい。

13 あなたは、「教育ファーム」を知っていますか。

単位：％

区 分	回答者数 (人)	計	内容を含め て知っている	名前程度は 知っている	知らなかつ た	無 回 答
消 費 者	137	100.0	14.6	40.9	41.6	2.9

14 あなたは、「教育ファーム」で、農作業等に取り組んでみたいですか。

単位：％

区 分	回答者数 (人)	計	無 料 なら や っ て み た い	有 料 で も や っ て み た い	現 在 取 り 組 ん で い る	や っ て み た い と は 思 わ な い	無 回 答
消 費 者	137	100.0	46.7	13.1	8.8	30.7	0.7

15 14で、「無料ならやってみたい」、「有料でもやってみたい」又は「現在取り組んでいる」と回答した方に伺います。取り組んでみたい理由又は期待する効果はなんですか。(複数回答)

単位：％

区 分	回答者数 (人)	計	自 然 と 触 れ 合 える た め	農 作 業 等 に 興 味 が あ る た め	収 穫 の 喜 び が 味 わ え る た め	人 と の 交 流 が で き る た め	郷 土 へ の 親 し み が 感 じ ら れ る た め	そ の 他	無 回 答
消 費 者	94	100.0	62.8	50.0	77.7	54.3	39.4	8.5	1.1

16 14で、「やってみたいとは思わない」と回答した方に伺います。教育ファームを「やってみたいとは思わない」理由はどれですか。(複数回答)

単位：％

区 分	回答者数 (人)	計	興 味 が な い た め	時 間 が な い た め	市 民 農 園 に 取 り 組 ん で い る た め	知 人 ・ 友 人 が 場 所 を 提 供 し て く れ る た め	こ れ ま で に 農 作 業 を 十 分 に 行 っ て い る た め	そ の 他 (自 家 菜 園 が あ る、高 齢 で あ る 等)	無 回 答
消 費 者	42	100.0	26.2	35.7	4.8	9.5	21.4	31.0	-

## 用語説明

### (1) 食育

平成17年6月に公布された食育基本法では、食育は、生きる上での基本であり、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるものとされています。食育に関する基本理念は、国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成に資することを目的とし、単なる食生活の改善にとどまらず、食に関する感謝の念と理解を深めることや、伝統のある優れた食文化の継承、地域の特性を生かした食生活に配慮すること等が求められています。

### (2) 食事バランスガイド

バランスのとれた食生活を実現するため、1日に「何を」「どれだけ」食べたらいいかをコマのイラストで分かりやすく示したものです。1日に必要な食事の量を「いくつ」という単位で表しています。主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物の5つのグループの料理を組み合わせ、望ましい食事のとり方やおよその量をわかりやすく示しています。

### (3) 食生活指針

平成12年3月に、当時の文部省、厚生省、農林水産省が国民の健康、生活の質の向上及び食料の安定供給の確保を図るために策定したものです。食生活に関する基本的な指針について、10項目から構成されています。なお、「食生活指針」を具体的な行動に移すためのものとして、平成17年6月に「食事バランスガイド」が策定されました。

### (4) 3色分類

食品の体内での働きを3つに分けて、主な食品を分類したものです。エネルギーのもとになる「黄色」、血や筋肉のもとになる「赤色」、体の調子を整え、病気への抵抗力をつける「緑色」の3色に分類されています。

### (5) 六つの基礎食品

食品に含まれている栄養素の特徴によって、栄養成分の類似している食品を6つに分類したもので、すべての食品群からまんべんなく食品を組み合わせることによってバランスのいい栄養摂取の目安となるものです。

### (6) 日本人の食事摂取基準

健康な個人または集団を対象に、国民の健康維持・増進、エネルギー・栄養素欠乏症の予防、生活習慣病の予防、過剰摂取による健康障害の予防を目的に、エネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示すものです。厚生労働省において昭和45年から策定され、5年ごとに改定されています。

### (7) 教育ファーム

自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深めることを目的として、できるだけ多くの生産プロセスを体験する取組を「教育ファーム」と称しています。具体的には、農林漁業に携わっている方から指導を受け、同じ人が、同じ作物について2つ以上の作業を年間2日以上行うものとしています。農林水産省では、こうした「教育ファーム」の取組を推進しています。

### Ⅲ 利用上の注意

#### 1 アンケートの内容

我が国の食生活は、輸入農林水産物・食品の増加、ライフスタイルの変化等により、食事内容や消費形態が多様化している。その一方で、朝食を欠食するなどの食習慣の乱れや野菜・果物の摂取量の不足等、食生活をめぐる様々な問題が顕在化している。

このような中、国民一人ひとりが自ら「食」について考える習慣を身に付け、健全な食生活を実現できるよう、食に関する知識や判断力を身に付ける食育を、国、地方公共団体はもとより、学校、農林漁業者、食品関連事業者等の様々な立場の国民が一体となり、国民運動として推進することが重要となっている。

本アンケートは、今後の地域における食育等施策の推進に活用するために、農業者及び消費者の食育等に関する意識・意向を把握したものである。

#### 2 アンケートの対象

東北管内の農業者モニター及び消費者モニターを対象とした。

#### 3 実施時期

平成22年1月

#### 4 アンケート方法

東北農政局からの往復郵送により行った。

#### 5 アンケートの回収率

	対象者数	回答者数	回収率 (%)
合 計	5 5 5	4 6 4	8 3 . 6
農業者	3 9 4	3 2 7	8 3 . 0
消費者	1 6 1	1 3 7	8 5 . 1

#### 6 アンケート結果表の利用に当たって

- (1) 計と内訳はラウンドの関係で必ずしも一致しない。
- (2) 回答を複数求めた設問については、合計が100%にならない。
- (3) 結果表に使用した「-」は、事実がないものを示している。

連絡先：東北農政局	電話：022(263)1111
総務部情報推進課	(内線4413)
消費・安全部消費生活課	(内線4072)
ホームページ： <a href="http://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/ikou/index.html">http://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/ikou/index.html</a>	